（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

① 新規就農者の育成

○ オンライン授業によるデジタル農業教育

- 農業を学ぶ学生の就農意欲の喚起を目的として、農業大学校と農業関係高校を結んだオンライン授業を計4回実施しました。
- 農業大学校の先生がいちごの栽培のポイントや本県いちごの強みを直接伝えるとともに、酪農においては搾乳作業のリアルタイム配信等を行い、高校生からは「新しい知識を身につけることができた」といった意見が出されるなど、とても好評でした。
- 今後もオンラインによる高大接続教育を推進し、就農意欲の喚起や、高校生に対する農業大学校の魅力発信を行います。



オンライン授業の様子
（左：農業大学校　右：農業関係高校）
（経営技術課）

○ 中古施設の活用による就農時の初期投資軽減策の取組が増加（上都賀地域）

- 近年の物価高騰や資材価格の上昇により、初期投資の負担が増大し、新規就農者にとって大きな障壁となっています。
- このような状況を踏まえ、新規就農者の負担を軽減し、就農できるよう、中古施設の修繕に支援が可能な補助事業（経営資源有効活用リフォーム支援事業）の活用を推進しました。
- 事業への関心が高まったことから、活用件数は昨年度より増加（1戸→3戸）し、円滑な営農開始に繋がっています。
- 今後も事業活用を推進し、初期投資の負担軽減と早期の経営安定化を支援していきます。



中古施設を解体して
得られた資材



中古施設の資材を活用して
修繕されたハウス
（上都賀農業振興事務所）

（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

① 新規就農者の育成

○　地域一丸となった新規就農者の確保（那須地域）

- 那須地域の農業を持続的に発展させていくためには、意欲ある担い手の確保及び育成が重要です。
- 地域を包括する「那須地域新規就農支援協議会（事務局：JAなすの）」が令和5(2023)年2月に組織され、一期生3名、二期生1名、計4名の研修生を受け入れました。
- 資材高騰等により、農業経営開始時の投資額が高止まりしていることから、生産部会等と連携した遊休資源の活用を推進しています。
- 今後も研修生の受入れを継続し、新規就農者の確保及び育成を進めます。



現地見学会



先進事例視察
（那須農業振興事務所）

○　20年以上続く群馬県内4Hクラブとの交流の取組（安足地域）

- 安足地区青少年クラブ協議会（安足地区4Hクラブ）は、平成14(2002)年度から群馬県邑楽館林4Hクラブと毎年、農業青年研修交流会を開催しています。
- 令和7(2025)年度は、「館林市水耕キュウリハウス＆JA邑楽館林でんえんマルシェ」を視察し（主催：群馬県）、21名が参加しました。
- お互い生産技術や考え方に刺激を受けながら、ネットワークづくりが活発に行われています。
- 今後も両4Hクラブの交流が継続できるよう支援していきます。



直売所の視察
（安足農業振興事務所）

（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 農業経営発展に向けた取組

- 農業経営の持続的な発展に向け、規模拡大や法人化、それに伴う雇用労力の確保等による経営力の強化を図るための研修会や講演会を9回開催し、延べ約80名が参加しました。
- また、農業法人への雇用就農を確保するため、雇用就農希望者が農業法人を見学する「法人ツアー」を2回開催し、延べ約20名が県内4法人を見学し、今後の就農に向けた意見交換を行いました。
- 今後も地域の営農を担う経営体の発展に向け、農業法人等の雇用の取組を促進していきます。



雇用管理者向け研修会の様子



法人見学ツアーの様子

（経営技術課）

○ 農業参入フェアへの出展

- 農林水産省主催の農業参入フェア2025（開催地：東京国際フォーラム）へ出展し、一般企業等に対して、本県への参入に向けたPR及び相談会を実施しました。
- 本県ブースには約10件の企業等が来訪し、県内への参入ビジョンや栽培技術などの相談に対応しました。
- 今後は、企業参入マニュアルの刷新や相談窓口の明確化、市町との連携強化により農業に意欲的な企業の参入に向けた計画づくりや農地確保の取組などを支援していきます。



栃木県出展ブースの様子

（経営技術課）

（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 地域計画の実現に向けた支援体制強化

- 地域の農地を将来にわたり適正に維持・活用していくため、各市町で策定した地域計画の実現に向けた取組を進めています。
- 地域計画の実現には、地域の課題解決に対するきめ細かな伴走支援が重要です。このため、地域を支援する関係機関・団体の職員や農業委員等を対象に研修会を開催し、具体的な課題解決の支援手法などについて理解促進を図りました。
- 今後も、本県農業の持続的な発展を目指し、引き続き地域計画の実現に向けた支援を継続していきます。



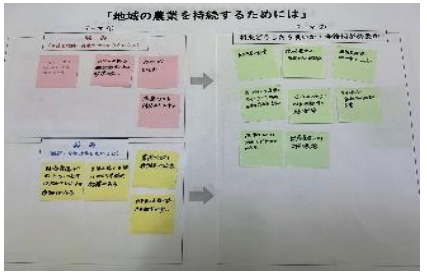

研修会の様子

（生産振興課）

○ 若手認定農業者との意見交換（河内地域）

- 上三川町東部地区で将来の地域農業を担う若手認定農業者を対象に、上三川町の農業の強みや課題、今後の方向性をテーマにしたワークショップを開催しました。
- 参加者からは、農作物の販路拡大や基盤整備の必要性など、将来を見据えた具体的な意見が出されました。
- 今後は、意見を参考に、将来の営農や、その実現に向けた取組について検討を進めます。


意見交換会



ワークシート

（河内農業振興事務所）

（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○　営農組織活動活性化研修会の開催（河内地域）

- 集落営農組織では、構成員の高齢化や離農が進み、組織の運営や活動が思うように進まない事例が増えています。
- こうした状況を踏まえ、先進事例として市貝町の「こかいの郷」の取組を学ぶ研修を実施し、若手人材の受入体制の構築や農地集積・集約化の重要性について理解促進を図りました。
- 今後も、集落営農組織が地域農業の担い手として活躍できるよう、農地集積や作業の効率化を進めるとともに、組織の体制強化を支援していきます。



研修会の様子
（河内農業振興事務所）

○　中山間地域集落営農ワークショップinもてぎ開催（芳賀地域）

- 中山間地における持続的な営農に向けて、茂木町の集落営農組織や農業委員等、約40名が参加するワークショップを開催しました。
- 参加者は、日頃の悩みや地域・組織ごとの工夫点などを率直に語り合い、今後の地域営農の方向性について活発に意見交換しました。
- これを契機として、その後に開催された「集落営農組合代表者会議」では、組合間のネットワーク化を進め、継続的な研修会などを行い、横の繋がりを深めることができました。



ワークショップ形式の話合い



集落営農組合代表者会議
（芳賀農業振興事務所）

（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○「JAおやま」が出資型法人の設立に向け準備会を創設（下都賀地域）

- JAおやまでは、担い手の減少や後継者不足に対応し、持続可能な地域農業経営の確立を目指しています。
- 令和6（2024）年度から農協・農協中央会・市町・県等で構成する研究会で検討を重ね、令和7(2025)年10月に、「JAおやま出資型法人設立準備会」を立ち上げました。
- 今後は、収益性や公益性の高い経営モデルとなる出資型法人の設立に向け、体制づくりや具体的な経営計画等の検討を進めていきます。



設立準備会の様子



準備会での検討

（下都賀農業振興事務所）

○ トップセミナーの開催　～地域農業を支え牽引するこれからの農業法人経営～（下都賀地域）

- 「地域農業を支え牽引するこれからの法人経営体について」をテーマとしたトップセミナーを開催しました。
- レタスを中心とした露地野菜経営の(株)ひじや農園と米麦を中心とした土地利用型経営のファームわか(株)を会場とし、代表者等からそれぞれの経営の考えや取組についてお話をいただきました。
- 参加者は研修会を通じて、経営の方向性を見定めるとともに、正社員やパートが働きやすい環境づくりの必要性等の理解が進みました。



(株)ひじや農園
雇用管理方法の説明



ファームわか(株)
人材確保の説明

（下都賀農業振興事務所）

（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 持続的な地域営農体制の確立（那須地域）

- 持続的な地域営農のためには、農地の集積集約や経営基盤の強化が重要です。
- 地域計画の重点支援地域である大田原市北滝片田地域において、機構集積協力金を活用し、7戸の担い手への農地集積（約55ha）を図りました。
- また、集落営農組織の再編、法人化を図るため、「那須地域水田農業ｼﾞｬﾝﾌﾟｱｯﾌﾟ研修会」を開催し、地域の実情に応じた組織育成や組織間連携の機運醸成が図られました。
- 今後も、こうした取組を通して、地域の農地の受け皿となる担い手の支援していきます。



機構集積協力金活用の打合せ



水田農業ｼﾞｬﾝﾌﾟｱｯﾌﾟ研修会
（那須農業振興事務所）



（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

③ 他業種との相互連携

○ さつまいもスイーツ開発で産地をPR（塩谷南那須地域）

- さつまいもを生かした特産品づくりを目指し、矢板市の生産者と飲食店がタッグを組んで、タルトとフィナンシェの新商品開発に取り組みました。
- 生産者自らが加工した干しいもと加工用途向けに新たに作付けベニアズマを活用したスイーツを、飲食店が試作しました。地域関係者の試食では大変好評で、今春の販売を目指し、改良を続けています。
- この取組は新聞にも掲載され、新たな名産品の誕生とともに、さつまいもの生産拡大が期待されます。



生産者と飲食業者が試作品を紹介する様子



試作品のタルトとフィナンシェ

（塩谷南那須農業振興事務所）

